

令和6年度 自己点検・自己評価項目

学校法人弘堂国際学園
日本語学校 弘堂国際学園

5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2取り組みを検討中 1:改善が必要

1.教育理念・目的等

			評価
1	1-1	理念・目的育成人材像は定められているか	5.0
2	1-2	学校の特色は何か	5.0
3	1-3	学校の将来構想を抱いているか	4.2
4	1-4	理念に基づく教育が行われているか	5.0

<現状・具体的な取り組み/課題>

今年6度は、地域に根差した国際交流を積極的に行うことができ、社会貢献に寄与する人材育成に取り組んだ。具体的な事例としては、鳥栖市の教育委員会から依頼があり、学童保育『なかよし会』に補助員として地域の子どもたちと交流をすることができた。また、地域のコミュニティセンターで人権に関するワークショップを依頼され、地域の方と意見交換し、国際理解に繋げることができた。令和6年度は、自治体などから国際交流をしたいと新たに招待を受けたり、依頼される機会が増え、当学園の教育理念・目的と一致した交流活動を行うことができた。昨年度課題だった、より高度で総合的な日本語能力の取得に関して、日本語能力検定試験のN1、N2合格者を昨年度より増やすことができた。

2.学校運営

			評価
5	2-1	運営方針は定められているか	5.0
6	2-2	事業計画は定められているか	5.0
7	2-3	運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	4.1
8	2-4	人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	5.0
9	2-5	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4.0
10	2-6	学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	5.0
11	2-7	危機管理体制は整備されているか	4.2
12	2-8	施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法に基づき整備されているか	5.0

<現状・具体的な取り組み/課題>

令和6年度も、「学校法人 弘堂国際学園 寄付行為」に基づき、理事、評議員、監事によって、学校運営は客観的に評価され、維持向上させるための管理運営に関する方針及び事業計画が明確に定められていた。学校教育法をはじめとする学校の設置、運営に関連する法令の遵守については、監督官庁その他の関連協会等の資料・情報などを収集入手し、法人及び学校の担当者と共通理解を図り、速やかに対応していくことに努めている。また、人事や賃金での処遇・職場環境及び危機管理体制の整備、施設・設備及び学生の安全確保については、「学園就業規則 第8章 安全衛生」に定められ、教職員や学生との自然災害等を含めた危機管理には特に迅速な情報の共有を図るよう努めている。令和6年度は、更に教職員の人数が増え、組織の機能及び管理体制の強化に繋がった。

令和6年度 自己点検・自己評価項目

学校法人弘堂国際学園
日本語学校 弘堂国際学園

5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2取り組みを検討中 1:改善が必要

3.教職員

			評価
13	3-1	教育理念・目的が教職員間で共有されているか	5.0
14	3-2	教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	4.6
15	3-3	教職員評価を行っているか	3.8

<現状・具体的な取り組み/課題>

令和6年度は、学校外で行われる教育の質を向上させるための研修や、カリキュラムを編成するために必要な勉強会に積極的に参加することができ、専任教員のスキルアップをすることができた。今後は、非常勤教員のスキルアップを行っていく。担任会議を1年生、2年生分けて定期的に行うことができ、情報を共有することができた。令和7年度は事務職員も担任会議に参加し国の状況を伝えることによって、教職員の連携や学生の指導に繋げたい。教員評価についても、令和6年度は前期と後期に実施することができた。今後はその評価をどうスキルアップのための教員指導に生かしていくかが課題である。

4.教育活動

			評価
16	4-1	カリキュラムは体系的に編成されているか	4.0
17	4-2	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.9
18	4-3	目標に向け授業を行うことができる用件・資質を備えた教員を確保しているか	4.0
19	4-4	成績評価は適切に行われているか	5.0
20	4-5	各種日本語試験の設定率向上のための指導体制は整っているか	4.2

<現状・具体的な取り組み/課題>

令和6年度は、カリキュラムの見直しを行い、令和7年度からのカリキュラムを新体制で行っていく。そのため、令和6年度はより多くの研修に参加し、研鑽と情報収集に努めた。教員の確保も万全ではないが、ある程度は確保することができた。その結果、授業評価を実施し、評価を令和7年度の給与や授業時間数に生かすことができた。引き続き、資質を備えた教員の募集を行っていく。令和6年度は、1年生にチューターとして2年生がチューター制度を再度導入した。また、指導体制を見直した結果、学年トップクラスの学生が他の学生の模範となり、学校全体の日本語能力の向上に繋がった。その結果、日本語能力検定試験のN1、N2合格者が増えることとなった。今後もチューター制度及び指導体制を継承していく。

令和6年度 自己点検・自己評価項目

学校法人弘堂国際学園
日本語学校 弘堂国際学園

5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2取り組みを検討中 1:改善が必要

5.学生支援

			評価
21	5-1	進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4.2
22	5-2	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4.0
23	5-3	学生の心身の健康管理・自己・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか	4.2
24	5-4	学生寮など、学生の生活環境への支援は行われているか	4.0
25	5-5	保護者と適切に連携しているか	3.9
26	5-6	卒業生への支援体制はあるか	3.8

<現状・具体的な取り組み/課題>

令和6年度は、マレーシア人職員を確保し、中国語・英語・マレー語によるサポートが可能となった。学生の病気や怪我、学生寮の問題等発覚した際は、すぐに学校全体で情報共有がなされ、明確な指揮のもと、教職員が迅速に対応し、学校全体で支援することができている。保護者との連携については、ネパールはネパール人職員がいるので、何か問題が起こった際にはすぐに保護者との連携が可能である。他の国に対しては、仲介機関を通して保護者に連絡をしている。職員の確保により、中国、マレーシアの保護者と直接連携が可能となった。卒業生への支援体制は、Facebookで情報を共有することができた。事務職員が増えたことにより、令和6年度は、卒業後の就職相談、在留更新申請に関する相談を支援することができた。

6.在籍管理と生活指導

			評価
27	6-1	入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	4.2
28	6-2	日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	4.0
29	6-3	わが国の法令を順守させる指導を行っているか	4.3
30	6-4	常に最新の学生情報を把握しているか	4.0

<現状・具体的な取り組み/課題>

令和6年度は、教職員の人員確保により、管理・指導体制を向上することができた。令和6年度も、学生が入出国する際には本校職員が付き添い、入出国の確認を徹底した。また、在留に関する指導、日本の法律、習慣、マナーに関する指導は、通訳をつけて入国直後より2回のオリエンテーション及び毎月の集会、毎日のホームルームで適切に行うことができた。学生の欠席時には電話連絡を行ったり、居住地を訪問するなどして、学生の所在、様子を確認している。常に学生の状況を確認し、担任と面談を行うことにより、最新の情報を把握することに努めている。令和6年度は、騒音で地域住民の方からクレームがあったため、これまでのオリエンテーションのあり方について、考える機会となった。これを反省とし、寮の規則については可能な限り母国語で行なう規定を設けた。日本社会を理解するための指導を強化していく。